2024年非鉄リサイクルの事業展望

新春インタビュー

将来の種まきの時期

日本アルミニウム合金協会
香山昌志会長

――2023年のアルミスクラップ市場回顧を振り返って。

「スクラップの手当てが大変だということを、二次合金業界に携わる人たちみんなが一緒に感じていると思う。出元がはっきりしていて成分も良く分かっている、アルミ素地の代替として使うワロ物と呼ばれる綺麗なスクラップが本当に出てこなくなった。脱炭素によってスクラップが取り合いになっているからだ」

「スク物の海外流出も悩ましい。関東のアルミスクラップ専門問屋が集まる軽金属問友会（藤原秀也会長）と懇談会を行った際には、いろんなものが混ざった二品物でないスクラップについては、かなり海外に出てしまっていることが話題になっている。アルミ素地の代替として使うワロ物と呼ばれる綺麗なスクラップが本当に出てこなくなった。脱炭素によってスクラップが取り合いになっているからだ」

――脱炭素でニーズが高まっているスクラップの手当ては、まだまだ大変になる。

「まさしくその通りだ。二酸化炭素（CO2）を減らしたものに対して、今はお金が付いてくる。CO2にお金が付いてくれば、われわれもかなりスクラップを使うかを考え、設備投資を行う場面が出てくると思う。具体的にはアルミが付いているや、今まで使えなかったスクラップをどのように溶かすかといったことを考えていかなければいけないと思う」

――23年の製品需要を振り返るとともに、24年1～3月期の見通しを。

「国内需要は回復傾向にある。上期はそれほど良くはなかったが、下期からは自動車部品（EV＝電気自動車用モーター部品）が計画通りに作れる状況が整ってきている。一方で、今の需要が、さらに盛り上がる感じはない。

自動車部品は、ボディ部品などは電気自動車（EV）化の影響で、ガソリン車用の部品が減っていくことが考えられる。ただ、EV用の部品は、ガソリン車用の部品が減っていくことを補うだけの量が作れるかどうかは、まだ分からない。ガソリン車用の部品が減っていくことを補うだけの量が作れるかどうかは、まだ分からない。